

分野（ 1 ）気管支ぜん息の発症、増悪予防に関する調査研究

研究課題名：③環境因子による増悪予防のための健康管理手法

申請課題名：微小粒子状物質(PM2.5)をはじめとする大気汚染物質に高感受性を示すぜん息群の抽出とその増悪予防のための効率的な健康管理手法の確立に関する調査研究

調査研究代表者氏名：滝澤 始

評価コメント

- ・PM2.5等の大気汚染に対するハイリスク群を同定しようとする調査で、環境再生保全機構の研究目的にもかなっている。
- ・住居が幹線道路から200m以内の居住者で、ぜん息重症群とコントロール不十分群が多いという結果は、今後の対策で重要と思われる。
- ・対象者にCOPDが入ったので、調査期間中に先行感染がなかったか否かの検討もしておくことが重要と思われる。
- ・大気汚染物質に高感受性を有するぜん息群について種々の指標を検討し、各種検査値や遺伝子解析について新たな成績が認められた。特に好中球関連の成績があり興味深い。
- ・大気汚染物質に高感度を示すぜん息群の抽出に向けて研究を集中させたらと思うがいかがか。
- ・大気汚染物質として、オゾンが再び注目されており、兵庫医大の島先生の調査でもぜん息発作との関連が示されているので、解析項目に加えるとよい。
- ・PM2.5発生源としてのタバコ喫煙(受動喫煙、滞留喫煙)の影響を把握し、このコントロールを考慮した研究の必要性がある。
- ・大気汚染のぜん息やCOPDに及ぼす影響を疫学的な方面から、また分子生物学・遺伝学的な面から解明しようという意義のある重要なテーマである。それだけに結論を出す時は慎重でなければならない。
- ・今後の介入試験までを構想に入れているので十分な検証が望まれる。
- ・ネガティブデータはネガティブデータで貴重である。
- ・研究が大変であることはよく分かるが、データの信頼性を高めるためにはもっと症例数を増やす(特に疫学調査)ことが望ましい。
- ・ACOSに対する検討も重要な研究課題として継続的に検討して欲しいと考える。